

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事務所内に理念を掲げ、理念の共有を図っている。職員会議でも理念の確認の機会を設け利用者、地域に向けての施設の姿勢を職員全員が意識している。	○	ホームとよまねの理念 「安心と尊厳のある」自立生活を支援し高齢者が「生きていること」を実感できる地域福祉の一翼を担うことを目指します。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者の能力に合わせた日々の家事、活動を利用者の意思で行えるよう、様々な活動を利用者とともに考え、実践している。近隣住民に声を掛け、顔見知りになりお茶を飲み、ホームを訪れる人もいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念、方針を具体的に説明する機会は設けてはいないが、ホームを訪れた時に目につきやすいよう掲示している。		入所時家族やご本人に説明を実施していきます。又ホーム内に掲げるだけではなく推進会議や職員会議、家族会議など機会があれば提示し理解を得ていきたいと考えています。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	特に意識はしていないが、外出時の挨拶や近隣に住む職員の影響もあり利用者、職員が顔見知りになることができた。今では近所の小学生や高齢者がホームに遊びに来るようになってきている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事の参加や、老人クラブにも出来る限り参加している。子供会の夏祭りにホームの敷地を貸したり、保育園の学芸会へ招待されたりと、地域とのかかわりも少しずつ増えてきている。	○	今後も地域住民との交流を深め地域福祉の一翼を担えるように努めます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域でとれる野菜を使った介護食の研修会や、認知症の理解を深めるための勉強会を地域の住民を対象に行った。また、昼間一人になってしまう高齢者を家族が連れてきて、ホームで時間を過ごすこともあった。</p>	○	<p>地域住民対象に研修会や介護教室など実施していきたいと考えています。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>対象者の観察を実施しそれに伴い介護計画を作成し定期的なカンファレンスや自己評価を実施しています。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>活動内容を中心に報告しておりそれに対して質疑応答を実施している。評価は自己評価、外部評価と報告する予定である。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>必要に応じて行き来している。新設の施設ということもあり、疑問点を聞きに行く機会は多い。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>入社時の職員研修で概要を説明し資料を配布した程度ではあるが行った。</p>	○	<p>今後さらに理解を深める勉強会を行いたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修会の参加や、職員会議でも取り上げる等常に気をつけている、特に日常会話の何気ない一言が相手を傷つけないように注意している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
連携を	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約事項だけでなく、利用者、家族の不安が軽減する様、介護や今後予測されるであろうことを話し合い、同意の上で解約している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部者に対し表す機会は特に設けてはいないが、利用者が気軽に苦情を口に出せる状態である。改善の検討や即対応できるものには対応している、又運営推進会議にて出された意見は運営に反映させています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に自宅を訪問し家族との連携を図りケアプランの説明及び状態報告をしています。変化があればその都度家族と相談し適切な対応をしています。施設内に写真を掲示し、目に見える様努めている。金銭管理については利用料支払い時に報告している。	○	今後も定期的な自宅訪問、家族との連携など実施していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族会を行い、その時の意見や面会時に寄せられる要望、意見には可能な限り対応している。	○	遠方に住んでいる家族も多く開催可能な時期、1月、8月の年2回開催予定である。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を行っている。日々の業務中にも提案されることもあり、可能な限り対応している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	可能な限り対応している。近隣に住む常勤、非常勤の職員を確保することで緊急時にも対応できるようにしている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	特に配慮はしていない。退職する職員に任せている。	○	職員退職に関しては利用者さん及びその家族に適切な説明をすることで心の動揺を軽減できるように努めています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ホーム内で勉強会を行い、ホーム外の研修にもできる限り参加している(他のGHや施設の見学、研修等行っている)。</p>	<p>○</p> <p>職員の研修や勉強会は今後も実施し質の向上を目指します。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同地域のGHの運営推進会議にお互いの職員が参加し、情報交換、など実施しサービスの質の向上を図っている。</p>	<p>○</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>特に取組は行っていないが、忘年会などは行っている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>特に取組は行っていない。個人の意思に任せている。</p>	<p>報酬アップの項目を検討したい。</p>
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前に訪問、面接を行い、不安なことがあれば軽減できるよう努力している。事前の自宅訪問を実施し本人が入所をどのように受け止め、何を求めているか傾聴に努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人と家族の関係、状況の把握に努め家族の話を傾聴し受け止め可能な限り対応するように努めています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族及び本人から相談があった場合必要に応じてその都度担当のケアマネジャーに報告し連携を図っています		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所にあたりご本人のそれまでの生活、趣味や思い等を把握しホーム内の雰囲気はもちろんのこと他の利用者や職員にスムーズになじみご本人が安心してホームで生活できるように声掛けや他者との会話の橋渡しなどの援助に努めています。	○	入所にあたり本人や家族と一緒に本人にあった環境を考えできるだけ本人の希望に近づけたいと考えています、ホームの部屋は洋室ですがご本人が望むのであれば畳を利用したり敷物を工夫することでご本人の意向にこたえることができるのではないかと考えております。
<b>2. 新たな関係作りとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理、行事、漬物など日常生活全般において利用者さんのほうが 詳しいことが多く教えてもらったり、教えたりしながら生活しています利用者さんに聞くと一生懸命教えてくださいます。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご本人に対して何が必要か、どうすればいいのか家族と連携を図り一緒に考え話し合っています。	○	平成19年4月に開所したばかりのグループホームです、どうすれば利用者さん一人一人が安心して楽しく暮らしていけるか家族会を創設して皆さんとの協力体制を築いていきたいと考えております。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所するにあたり関係機関から情報提供を受けたり事前訪問にて家族や本人から話を聞いたりして状況把握に努めています、又入所後も家族会や面会、電話での連絡などをつうじてより良い関係の構築に努めています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで築いてきた地域住民との交流(老人会)など例会への参加ができるように支援しています。	○	老人会の代表者と協力し今後も参加できるように支援します。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	各利用者さんの誰と誰が仲が良い、この利用者さんはいつもフロアのここに座ってこの人と談笑しているなど職員がそれを理解している又利用者が円滑に交流できるように常に見守りと援助を実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	健康的な事情などにより退所された利用者様及びそのご家族様には必要に応じて適切な対応をさせていただいております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向の把握が困難な場合には家族や職員でカンファレンス等を開催し適切な対応を検討しています。		都合もありご家族がカンファレンスに参加していただくのはなかなか難しいですが出来る限り連携を図っていきたくと考えております。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の中からその人がどのような生活を営んできたのかこれからの生活に何を望んでいるのか把握し適切な対応に努めます。本人や家族との会話の中から生活歴、人間関係、家族とのかかわりなど把握しアセスメントやケアに反映させています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	排泄、バイタル、食欲、就眠状態など日常生活全般の観察を実施して心身状態の把握に努め機能の向上を図っています。		
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がより本人らしく生活できるように職員及び家族や関係機関と連携を図り、課題分析、モニタリング、カンファレンス等にて意見交換を実施しケアプランに反映しています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的カンファレンスを実施しているがそのほかにも困難事例や変化時などそのつど職員や家族、関係者などと話し合いプランに反映し状態を改善できるように努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	受診記録、血圧、熱、入浴、食事の献立及び食事摂取の状況、排泄(本人の状態による)顔色、精神状態、表情、定期的なカンファレンスの実施などを記録することで一人一人の状態を把握しそれを介護計画に活かせるように努めています。	○	アセスメント→ケアプラン→介護計画書→実践→評価→見直しなどを実施する。
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	美容院、受診、買い物、金融機関などへの移動の援助、家族への連絡と必要時の協力、など利用者さんの機能低下を防ぎ出来る限り自立した生活を維持できるようにその都度柔軟な支援に努めております。		
こう				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員、消防、保育園園長等運営推進会議に出席していただき協力していただいています	○	地域住民で運営している産地直送の「おでんせ市」に利用者さんと一緒によくでかけている、そこで地域住民(特に主婦)と世間話や野菜の話をしている、社会性保持と閉じこもりを防止するため今後も継続していく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域老人会への参加についてその都度担当者と相談し適切な対応を検討している、又地域の方々の協力にて余暇活動(畑の野菜の収穫)ができるように協力を得ている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護担当者には毎月来所していただき協力を得ている、又運営推進会議には地域包括支援センターの職員にも参加していただき情報交換や参考意見などを聞かせていただき協力関係を築いています。	○	今後も地域包括支援センターと協働していきたいと考えております
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医を受診している。	○	医療機関との連携を図り健康状態を維持向上できるように必要に応じて受診を援助していきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的に担当医の受診をしており医療機関との連携を図り利用者の認知症の進行防止に努めている	○	上記に同じ
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎日健康チェックを行い、異常の早期発見に努め、緊急時などには看護師と連携し迅速な対応に努めている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は医師、看護師とコンタクトをとり、職員も見舞いに行き状況把握に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制の指針の中に重度化、終末期のあり方を定めている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	急変した場合すぐ対応できるよう医療機関、地域在住の看護師と連携を図っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	サマリーや主治医意見書でこれまでの生活環境、支援内容を把握し、対応している。入所時はなるべく本人のなじみの物で居室を作ってもらおう等家族にも協力してもらいその人らしい環境をともに作るよう努めている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報事務所内の書庫に保管し管理を徹底し第三者の目に触れないよう心がけている。身体のケアをする時は介護の様子が見えない様居室にて行いプライバシー保護を厳守しています。担当の介護職員も利用者の意向に合わせて対応している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その日にすることを十分に説明し、押し付けにならないよう選択してもらえるよう努めている。作業や家事にその人のかかわり方を考え、出来る範囲で参加を促すよう努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の1日の流れを把握し、希望があればその都度対応できることは柔軟に対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容室、美容院は本人又は家族の希望する店に行き、着替えなども本人の意向で行っている。	○ 何度か服の買い物にも出かけたが、今後もっと機会を増やしたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物など準備や調理を一緒に行ったり、食材の産地を説明し、ただ食べるだけでなく興味を持ってもらえるようにし、入居者の座る場所なども考え、快適に食事ができるよう努めている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の希望を大切にし対応している。生協のカatalogなどを一緒に見て食べたいものを注文できるよう働きかけている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックを毎日行い、その人のペースをつかみ、職員が共有している。必要に応じて声掛けやトイレ誘導を実施している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴チェックを毎日行い、その人の入浴のペースをつかみ、入る曜日を決め声掛けをしているが、希望があればその都度対応している、本人の希望で就寝前に毎日入浴している利用者さんもある。	○	移乗や立ち上がり、浴槽への出入りが困難な利用者もおり浴場の機材を充実し誰でも入浴しやすい環境を作りたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	最近利用者がソファや炬燵等で横になってくつろいでいます。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや家事を通し、その人ができること、好きなことを理解し、職員が共有している。家事に限らず、塗り絵や張り絵、裁縫などの参加を促し、その人の出来ることを理解できるよう努めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力に応じて管理の方法を変えており、外出時には預かっているお金の一部を手渡し自然に買い物ができるようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望があればその都度対応し、天気のいい日などには声掛けをして外出を促している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段の会話の中で聞かれる行きたい場所などを把握し、可能な範囲で行事として機会を設けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を利用できることを伝え、希望があればその人の能力に応じ対応している。年賀状などは能力に応じて支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や馴染みの人を行事に誘ったり、家族会を開き、気軽に訪問できるようにしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 「運営者及び全ての職員が介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議や日々の業務の中で確認している。	○	研修会があれば積極的に参加したい。ホーム内でも職員会議などで身体拘束について話し合っている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	常識としてとらえ、鍵の掛けないケアを実践している。		帰宅願望や徘徊などの状態にある利用者さんに対しては安全性を考慮し常に見守り等の担当職員を確保していく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者のその時いる場所を常に把握している。ホールに出でこない利用者には時間を見計らって声掛けなどをして訪室している。夜間は時間ごとに巡視を行い安全確認を徹底している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	生命の危機に関わるものは職員が管理し、必要時職員の立会いの下、渡している。物を預かる場合は本人や家族と相談し理解を図っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	寝具をそれぞれの状態に合わせ、飲み込みの悪い利用者には刻み食で対応している。発生時には事故報告書、ヒヤリハット報告書に記載し、回覧することで職員が共有の意識を図り、意識を高めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	心肺蘇生法、AEDの講習会に参加し、急変時対応できるようにしている。事故発生時の対応マニュアルを事務所に掲示し、意識を高めている。	○	応急処置の勉強会を実施したい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は定期的に行っている。運営推進会議でも協議し、地域との連携を図っている。	○	自然災害時はGHだけが被災するわけではないので、さらに地域との協力関係を深めていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所前の訪問で説明している。状況が変化した場合にはその都度説明、相談し家族の理解と協力を得られるよう努めている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化にはスタッフ一人一人気をつけ観察している。状態報告は必ず実施している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状態変化には気をつけている。服薬は本人に手渡しし、飲み忘れの無いよう確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事に気をつけている。ニンジンジュース(アイス)、食物繊維の多い食品、ヨーグルトなどで対応している。	○	管理栄養士による研修を行っているが今後回数を増やし、食事に対する知識を増やしたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	昼食後は特に援助しておらず、朝夕は誘導を行っている。	○	今後は毎食後声掛け誘導し清潔保持する様心がける。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量チェック表を作成し、個人の摂取状況、摂取量を共有し栄養バランスも考え料理している。おやつ時にも必ず水分を取るよう声掛けをし、アイスなどでも対応している。管理栄養士に献立をチェックしてもらい、献立作成の参考にしている。	○	個人により好き嫌いや食事拒否する方もいるので、喉通りの良い食品(ヨーグルト、牛乳等)で対応している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成している。インフルエンザ予防接種を入居者職員全員受けている。面会者にも玄関での消毒をお願いして感染症予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	1日1回夕食後に台所の消毒を行っている。残った食材はなるべくとっておかない様処分している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	プランターに花を植え雰囲気を明るくし、地域の方が立ち寄りやすくするようベンチを置いている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花などを生けたり、入居者希望でホールの模様替えをしたり心地よい空間作りに配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの座る場所も何となく定まり、それぞれの場所々に座られているが、気分次第でお互い譲り合いながら座られている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人の良いように、室内を装飾され、ご家族の写真を貼られたり位牌を持ってこれられ手を合わせ、安心して過ごされるよう配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室内は常に換気されており温度は一定に保たれている、冬場は湿度を確認し空気が乾燥しすぎないように加湿器を使用している。	○	
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、ホール、浴室には手すりがあり、安全かつ出来るだけ自立して過ごせるよう工夫している。ホールの手すりの高さを普通の手すりより15cm低くしてある。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室前に表札は取り付けられておらず、一部の方のみではあるが混乱される時があり、他者の部屋に入ってしまうこともある。	○	居室前に表札をつけ、暮らせるようにしたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外回りの草取りを行ったり、ウッドデッキ前の花壇に花を植えるなど、土に触れていただいている。暖かい日はウッドデッキのソファに座り外を眺めて気分転換を図っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)